

登録有形文化財「藤岡家住宅」

「高野への道」

高野山開創1200年記念展示

紀伊國 高野山明王院 弘法大師尊影



高野山團扇 銅版画 石田有年 高野山全図

平成27年4月1日(水)から6月26日(金)展示室にて

登録有形文化財「藤岡家住宅」管理人
NPO法人うちの館（やかた）
〒637-0016 奈良県五條市近内町 526
☎とFAX 0747(22)4013 9時～16時
大人300円・小人200円



「高野への道」 高野山開創 1200 年記念展示

平成 27 年 4 月 1 日（水）から 6 月 26 日（金）・展示室にて

階間 9:00～16:00 月曜休館・月曜が祝日のときは開館して翌日休館

入館料（維持管理ご協力金）大人（高校生以上）300 円・小人（小・中学生）200 円

20 名様以上で 2 割引・市立五條文化博物館と同日入館で 2 割引



高野導き犬（郷土玩具）昭和 10 年

弘法大師・空海は西暦弘仁7（816）年、東西約 6 ㎞、南北約 3 ㎞の盆地が広がり周囲を内八葉外八葉の峰々に囲まれ、蓮（はず）の華のような地形をした海拔 1 千餘の高野山の山上に仏教の一大聖地を開きました。10 世紀後期頃からは大師入定信仰がさかんになり、高野山は更に、一般民衆の信仰と尊敬を集めました。西暦 2004 年（平成 16 年）7 月には「紀伊山地の霊場と参詣道」として、ユネスコの世界文化遺産に登録され、今では世界有数の観光地、歴史・文化の宝庫として注目されています。平成 27 年は高野山開創 1200 年にあたることから、高野・吉野・熊野という三つの「野」への入り口に位置する五條（宇智・宇智野）の里で江戸時代から続く庄屋であり薬種商を営んでいた藤岡家所蔵の高野山関係の資料を展示します。

藤岡家当主大坂屋長兵衛（延享 4 年・1747 年～文化 9 年・1812 年）は文化 5 年・1808 年、五條市内に大和新四国 8 8 箇所を定め、2 代目長兵衛（生没年不明）は高野詣でに行き、その足で龍神温泉に行った記録『龍神行きの覚』（下欄写真①）を残しています（文政 7 年・1824 年）。龍神にむかう険しい道には「左 大水の時ハ此方（こちら）へ回るべし」と刻んだ道しるべを建て、その道しるべは平成 26 年にテレビ番組で取材し報道されましたが、通常では入るのが困難な山中に建てられています。長兵衛は龍神温泉から熊野古道中辺路に入り、熊野へ詣でたと思われます。高野山へ通じる道は 7 本あり「高野七口」と呼ばれていました。長兵衛の記録はその内の有田・龍神道にあたります。

「高野山団扇」（明治時代）（表面・下欄写真②）には、江戸時代の末期から明治時代の初めにかけて活躍していた京都の銅板画師石田有年の描いた高野山全図が克明なエッチングで描かれ高野七口も見つけることができます。空海の母の逸話が残る袈裟掛石（けさかけいし）・押上石（おしあげいし）、ネジ石などは女人禁制の時代を物語ります。「玉川溪真景」（狩野桂一 推定昭和 10 年）は全部で 12 枚のモノクロ写真で構成され、戦前の玉川溪谷の道を写しています。（表面・下欄写真③）「手鑑（てかがみ）」（8 世紀～17 世紀・名筆集）の内「空海」の文字と伝えられる「小品般若波羅蜜多經（しょうほんはんによはらみたまきょう）巻 9」の内 5 行も展示します。伝跡筆者「空海」の経切れは、若々しく、唐の国の経文を記しています。（下欄写真④）そのほか、江戸時代から残されている弘法大師像「弘法大師御伝記」（元禄元年・1688 年）（下欄写真⑤）や高野詣での旅のお守り類なども展示する予定です。高野を目指した人々の「道」の記録を、さまざまな角度から見ていただければと願っています。藤岡長和（明治 21～昭和 41）は第 28 代の和歌山県知事（昭和 9 年～11 年）を務めたため、他には見つけにくい高野山の資料も所蔵しています。高野導き犬は長和が紀州郷土玩具研究会から贈られたもので、空海を高野へ案内した白い犬と黒い犬を表わしています。（写真上）



写真①



写真②



写真③



写真④

写真⑤

〒637-0016 奈良県五條市近内町 5 2 6 ☎と FAX 0747 (22) 4013

info@uchinono-yakata.com

<http://www.uchinono-yakata.com> 登録有形文化財「藤岡家住宅」管理法人 NPO 法人うちの館（やかた）